

I. 初めに

大学入学後、学科の仲間や先生方に自己紹介する際に、私の地元である宮古島について詳しく説明することができなく悔しい思いをしたので、何か宮古島について研究したいと思っていたところ、この研究の存在を知り、研究を始めました。

II. 研究の目的、動機

私の地元である、宮古島の西原地区に伝統行事<ミャークヅツ>での、その年1年間に生まれた赤ちゃんを迎え入れる<マスムイ>という儀式的様子や、そうした伝統行事が現在も行われている西原地区の子どもと地域の人々との関りについて知る。それを踏まえて、現在の西原地区の地域教育にどう生かされているのか調べる。そして、これから携わる学校現場で生かしていきたい。

III. 研究方法、地域、期間

研究方法

- 1 伝統行事<ミャークヅツ>について資料で調べる。
- 2 西原地区の住民からの聞き取り調査
- 3 実際に行事に参加する。
- 4 西辺小・中学校と地域との関りについて調べる。

8月、10月、12月の3回のフィールドワークを現地で行い、調査結果をまとめる。

地域

沖縄県宮古島市平良字西原

期間

7月～9月：研究①②④

10月：研究③ 中間まとめ

1月：最終まとめ

今回のミャークヅツは、12月24日から4日間の日程で行われた。

IV. 結果

研究①では、祖母の家に池間敏男さんがまとめたミャークヅツについての資料と、宮古島市がまとめたミャークヅツについての資料、そして、西原地区に受け継がれている西原地区の行事についての資料があり、それを参考にしました。研究②では、祖母を始め、今回<マスムイ>の儀式を担当した叔父、おじい入学をした方たちにインタビューをしました。研究③は、今回の<ミャークヅツ>の日程が平日だったため、一日目の夕方から宮古島へ行き、参加しました。研究④では、祖母が所属する西原コーラスユリの会の皆さんたちの、西辺小・中学校との活動の様子、祖母の個人での西辺小学校での活動を中心にまとめました。

＜ミャークヅツ＞とは、豊年祭のことです。もともとは、宮古島の北にある池間島で行われていた行事で西原の最大のお祭りとなりました。池間にミャークヅツが始まってからおよそ100年後に西原は分村し、ミャークヅツの始まりは不明だそうです。分村した当時、45歳以上の男性は約70人居たそうなので、人数上では、当初からできていたのではなっています。しかし、分村してきたの家庭づくり、村づくり、畑づくりなどで行事を作余裕はなかったのではないかと、何年か後に、落ち着いてから始めたのではないかと考えられます。西原の男性が数え50歳になると、神様に連なる仲間入りをするという意味で、新入お祝いをします。4日間にわたるお祭りで、どんなに遠くに住んでいても、このお祭りには、みんな帰ってきて、とても賑やかに行われます。お祭りの2日目の早朝から、この1年の間に生まれた、西原の血を受け継ぐ子どもたち全員の名前が、おじいたちによって、ナイカニ御嶽（ナカマ御嶽）の神様に報告されます。この儀式を＜マスムイ＞といいます。その儀式の際に、男の子と女の子それぞれ二回歌を歌い、報告します。この儀式が、＜ミャークヅツ＞のメインです。＜マスムイ＞が終わり、お昼からナイカニ御嶽を出発しジャーガマに向かってパレードをします。海洋池間民族共通の祭りとして、池間島や伊良部佐良浜でも同日にミャークヅツが行われますが、西原では五穀豊穡の旗が踊り、パレードで練り歩くという独特の風習が生まれました。海洋民族が豊かな地を得て、農業が発展してきた歴史を物語っています。

また、西辺小・中学校とのかかわりとして、＜ミャークヅツ＞をはじめ、海神祭やその他の伝統行事に積極的に参加し、私たち西原地区の伝統文化を守り伝承していく姿勢が見られました。それは、私が小・中学生のころからで、総合的な学習の時間を通して、地域学習をし、にしはらのおじい・おばあを先生に迎え、伝統文化・行事について学習してきました。祖母が所属する西原ユリの会の活動として、西辺中学校の生徒と西原方言を遣った劇をしていました。子どもたちは、多くの生徒は西原地区外から通っているため、まったく方言が難しく、覚えるのに苦戦していました。その練習の成果を、学習発表会や宮古島市の方言パフォーマンス大会で披露するなどしていました。そして、祖母が個人で西辺小学校へ訪問し、＜クイチャー＞という、雨乞いの踊りについての講演を毎年しています。その講演で＜クイチャー＞を学んだ子どもたちは、＜ミャークヅツ＞でおじいたちと一緒に踊ったり、運動会で踊ったりしています。

V. 考察、分析

この研究から、西原地区では子どもを大切に育てるという姿勢が、意識的ではなく、伝統として根付いていることがわかりました。伝統行事＜ミャークヅツ＞に実際に参加して、私は物心つく前、また生まれて＜マスムイ＞の報告をされた時から参加していた行事で、そろそろ形は残っていても適当に行われているのかと思っていましたが、おじいたちがこの行事のために、1か月に1度集まって勉強会を開き、伝統を守り伝承していきいること、全力で護国豊穡を願い、歌を歌い、クイチャーを踊る姿に感銘を受けました。その姿

は、力強く、とてもたくましかったです。

そして、伝統を子どもたちへと伝承していくおじい・おばあの活動、またそれを受け入れる学校側も、相互理解ができていてこそだと思いました。学校側の地域の伝統継承活動への協力体制は、とても整っていると思います。

VI. 今後の展望

子どもたちへの文化の継承ができている現在、＜ミャークヅツ＞は行われると思います。しかし、学校統廃合が進む宮古島で、いつ西辺小・中学校が統廃合するかわかりません。もし統廃合してしまうと、この地域と学校が連携して行っている地域学習が難しくなり、伝統を継承することができず、この行事だけでなく、他の伝統行事も開催することができなくなってしまうと考えられます。

VII. 終わりに

私は、今回の研究を通して、私の地元宮古島の西原地区について、詳しく知ることができました。今回の研究を、私自身が目指す教育観につなげ、また、学校経営に生かしていったらと思います。来年は、＜ミャークヅツ＞の発祥地である池間島について研究したいです。

VIII. 参考文献、調査協力

参考文献

池間系民族の大きな行事 ミャークヅツ 池間敏夫
調査協力 祖母 叔父 西原のおじいたち

IX. 指導教員コメント

本研究では、自身の小学校・中学校の体験を手掛かりに、故郷である西原地区のために何ができるのかを模索し、真剣に取り組んだ形跡が見受けられます。地域社会から小・中学校が無くなっていく（統廃合されていく）中で、今できること、これからできることが見えてきたと思います。例えば、宮古島の近海にある大神島からは小学校がなくなり、三世代で暮らす環境が変わったと聞きます。一方で、久高島や鳩間島のように山村留学センターを作ることによって小・中学校を維持し、地域教育や地域行事を支えている事例もあります。

西原は宮古島市（旧平良市）の中心街の近郊で、統廃合への危機感があるのも伺えますが、貴方の母校と故郷への想いと、伝統文化と地域教育の担い手になっていこうとする取り組みは、小学校教員を目指す人生にとって心強い道しるべになると思います。

